

# 平成 28 年度事務事業評価表 (一般用)

事務事業名		担当部課		部課コード	090500	2998-9146		
事業コード	一般廃棄物運搬・処分業務委託事業			資源循環推進課				
090505				グループ 総務				
開始年度		昭和 57 年度	終了年度		平成 年度			
事業の概要	事業の種類	自治事務	法定受託事務	法定受託 + 附加		根拠法令		
	分野別計画・指針	一般廃棄物処理基本計画				廃棄物の処理及び清掃に関する法律、所沢市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例		
	関連・類似事業	(仮称)第2一般廃棄物最終処分場整備事業						
	総合計画の体系	章 環境・自然	節 廃棄物の減量・資源の循環	基本方針	環境に配慮したごみ処理体制の推進			
事業開始の背景	廃棄物を適正に処理し生活環境の保全を図るため、クリーンセンターの中間処理後の不燃残渣や焼却灰等は埋立処分をする必要があるが、市内の最終処分場確保が困難であったことから、昭和57年度から市外の最終処分場へ搬出し、埋立処分を開始したものである。							
事業の内容	目的(どのような効果を目指して実施しているのか、具体的に)							
	埋立を必要とする焼却灰等の廃棄物が生活環境に悪影響を及ぼさないように適正処理を行う。また、埋立量を減らすために資源化処理を進める。							
	対象(誰を、何を対象としているのか)	対象数	単位	平成 26 年度	5,088	t		
	中間処理後に排出される焼却灰等の廃棄物			平成 27 年度	4,587	t		
事業の具体的な内容及び実施方法	平成16年度末で北野一般廃棄物最終処分場の埋立が終了し、現在市内には埋立のできる最終処分場がないため、クリーンセンターから排出される焼却灰等の廃棄物は市内で処分することができない。そこで、県営最終処分場及び民間最終処分場に埋立処分をしている。また、廃乾電池・廃蛍光管等については、資源化処理を実施している。 なお、本事業については、平成24年度から東部・西部クリーンセンターへ執行委任をしている。							
経費	会計種別	一般会計	平成 26 年度 (千円)	平成 27 年度 (千円)	平成 28 年度 (千円)			
	予算現額		318,695	299,711	310,703			
	決算(見込み含む)		288,218	278,841				
	(非常勤特別職員) (臨時的任用職員)	( 0.00 人)	( 0.00 人)	( 0.00 人)	( 0.00 人)	「財源内訳」について平成28年度のみ、当初予算の内訳となっています。		
	正規職員人件費	0.16 人	1,395	0.16 人	1,386			
	事業費合計		289,613	280,227				
財源内訳	一般財源	282,683	273,573	303,926				
	国・県支出金	0	0	0				
	その他( )	6,930	6,654	6,777				
実績	項目名	項目説明	単位	H 26	H 27	H28見込み	将来目標	
	活動実績	廃棄物の総処理量	焼却灰、不燃残渣、廃棄物等の引渡量	t	11,170	10,788	11,679	9,000
		廃棄物の最終処分量	最終処分した廃棄物の引渡量	t	5,088	4,587	4,470	4,000
成果	項目名	項目説明	単位	H 26	H 27	H28目標値	将来目標	
	成果指標	廃棄物の最終処分率(埋立率)	廃棄物の最終処分量/総ごみ量	%	目標値 2.0	2.5	2.5	2.5
				実績 4.7	4.4	<input type="checkbox"/> 「実績」拡大図 <input checked="" type="checkbox"/> 「実績」縮小図		
目標達成状況	どれだけ目標に近づいているかを達成率として示しています		%	達成率 43	57	どちらかをチェックしてください		
改善点	(1)平成27年度中に改善した点(改善内容・その結果について記載してください)				(2)平成27年度成果指標の目標値が未達成の理由・分析			
	溶融スラグをコンクリートブロック原料として495トン資源化し、最終処分量の減少を図った。				平成27年度の埋立率は4.4%であり、前年度実績と比較すると、0.3ポイント減少しているが、目標値は達成しなかった。溶融スラグの有効利用を進め、84%を有効利用したものの、まだ16%が埋立処分となっており、また、溶融飛灰について、震災の影響による受入停止が続いており、止むを得ず埋立処分となっていることが要因となっている。			
評価	評価	事業実施方法(複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> その他	理由	引き続き埋立処分から資源化処理ができる受入れ先の拡大に努めていくとともに、ごみ減量化施策についても検討していく。			
		次年度予算	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	理由	埋立を必要とする焼却灰等について、生活環境に悪影響を与えないよう適正処理を行い、環境保全に努める。			
備	(1)平成28年度に取り組んでいる状況				(2)今後の方向性			
	溶融スラグの有効利用をさらに進めるべく、今年度はコンクリートブロック原料として1,000トンの資源化を図る。				ごみの減量や正しいごみの分別について引き続き周知を行い、廃棄物の発生抑制を促していく。			
	評価日	H28.8.5	評価者職氏名	資源循環推進課長 池田 淳				
環境影響	有益な環境影響	2-3廃棄物の適正処理		有害な環境影響を及ぼす原因活動	廃棄物の排出及び適正処理		規制を受ける環境法令等	無
							緊急事態	無